

1 実施日 令和7年11月28日（金）14:00～16:15

2 出席者

(1) 協議会委員（五十音順）

柏原 泰和（川西地区青少年健全育成協議会会長）
川端 康寛（三島高等学校同窓会会长）
林 武文（関西大学教授）
平田 ミカ（三島高等学校 PTA 会長）
松葉 祐治（高槻市立郡家小学校校長）

(2) 校長 山下 克弘

(3) 事務局

高原 浩徳 教頭 廣澤洋二 首席 一馬 愛 首席、総務部長 香西 朝夫 事務長

3 議題

(0) 授業見学／生徒作成のクラブ紹介動画と学校説明会の生徒インタビュー動画を鑑賞

(1) R7年度学校経営計画の進捗状況について

(2) R8年度使用教科書選定理由一覧表について

4 委員会からの指摘提言

【授業見学・動画鑑賞について】

- ・IT機器の使用も増え、工夫されている。高校の教育改革も進められていく中、応援していくたい。
- ・毎年レベルが上がっている。先生同士でも情報共有されているのではないか。
- ・生徒主体で教員がファシリテーターとなっていたが、教える側も発表する生徒も準備が必要になる。
- ・スプレッドシートでのフィードバックは会社でも使用しているので、仕事にも繋がりそう。
- ・自分で考えて発表することは仕事にも必要なスキルなので、将来的にも役立つ。
- ・IT化が進んでいるが、若い人は発表も上手で、社会に出てからの即戦力にもなる。
- ・一方的な講義形式より友だちと会話しながら学ぶと記憶に残るので知識の定着にも繋がるだろう。
- ・小学校でもペアワーク・グループワークを15分ごとに入れたりしているが、中高と学びが繋がって深まっていくのではないか。生徒も教員の熱意に答えようとしていた。
- ・主体的な取り組みの工夫が見られたし、生徒が自分たちで楽しむ姿勢もある。高校生のプレゼンを子どもたちに見せてもらえたら、キャリア教育に繋がると思う。
- ・学校説明会の生徒インタビューでは、先生と生徒の間でコミュニケーションが取れているのがわかるものだった。先生より生徒が話すと好評なことが多い。続けていってほしい。

- ・知識はA Iが教えてくれる時代。これからは発表などが大事になってくる。
- ・A Iは企業でも日常的に利用されていて、必要性が実際に高まっている。研修も人を介するものと介さないものを分けています。授業も良いものを保存して、映像でまとめると時短になり、教える側の負担も減るのでないか。自分で見ておく映像の授業と、双方向での授業を組み合わせるなど、授業でもA Iを活用していくと思う。
- ・AO入試や卒業論文でもA Iを活用している。自分がオリジナルで考えて取り組むことや、人に情報を伝えるプレゼンテーション能力や表現力、コミュニケーション力も重視していくべきだ。
- ・A Iは高校生にも一般化されつつあるので、有効に使うには、A Iにできないことを将来できるような人材を育てる意識も必要だろう。

【学校経営計画進捗状況について】

- ・公立高校の厳しい状況が続いているが、学校説明会で多くの参加があったというのは良かった。
- ・学校を良くしよう、生徒の学びを高めようというのは中学生にも伝わるだろう。私立との差別化は難しいが生徒も教員もICT活用のレベルが上がっている。
- ・一番危惧していることは、私立の授業料無償化で、公立と私立という母体が違うものを同じにしようとすることだ。授業料無償化はいいが、同じ土俵（施設設備面での改善等）で競えるようにすべきではないだろうか。
- ・教育の質を上げるために、研修に積極的に取り組んでおられる。
- ・海外との姉妹校提携は有意義で、小学校でもオーストラリアとの交流が異文化を知りたい気持ちや日本のこと伝えたい気持ちにも繋がっている。高校生ならもっと深い学びになるだろう。交流を機に、異文化理解を深めていけると良い。
- ・不登校傾向の生徒がいて、進級・卒業が難しい場合も、録画した授業を見ることで、一時的に来れない状況を乗り越えられる可能性があるのなら、ICTを活用できればと思う。
- ・A Iは教育相談でも利用されている。友だちには聞けないことも聞けたりする。適切に使う方法を学んでいけると良い。

【R8年度使用教科書選定理由一覧表について】

- ・私学との違いで、2年生で数学の授業があるかどうかというのがある。情報化社会で生きていく上の論理的思考力に役立つ。2, 3年生までやっている子とそうでない子で差が出ると大学でも言われている。三島高校は文系でも数学を教えておられるので、良いと思う。